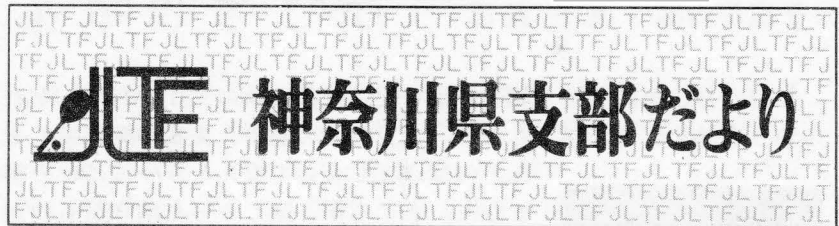


第18号



事務局

北原 洋子

第8回朝日レディーステニス全国決勝大会

11月4日～7日迄、朝日生命久我山テニスコートで開催された全国決勝大会は、東京の初優勝で幕をとじました。

神奈川県勢は残念ながら1回戦敗退でしたが、準優勝の京都を相手に、誰が見ても「オシカッタ!!」と感じる大熱戦でした。

今年は、*ドローは総て抽選で決める。*開会式は前日夜にするなど、新しい試みを取り入れた役員の方々の御苦心の結果が見られました。

過去、優勝4回、常にベスト8以上という輝かしい実績を背負って、又皆の「今年も」という期待を受けて、選手の方々も大変だったと思います。全国的にレベルも上がり、各県が「強豪神奈川」を目標にして練習、努力している中で、尚、勝ち抜く為には、今後何をなすべきか? 課題はいろいろあるでしょう。

全国大会が終わった今、来年の朝日レディースを目指し、又、新しい一年が始まりました。

監督として出場して

橋場 京子

苦しい県予選を勝ち抜いた、岩里・高杉組、佐藤・河村組、村野・森内組の3ペアが、県代表として、懸命に練習を積んで出場しました。が、神奈川県としては、初の1回戦敗退と言う残念な結果に終わりました。敗れた瞬間、新聞記者が私に「敗因は?」とたずねました。私は即座に「監督の差です」と答えました。これは選手をかばって言うものではありません。本当に私が感じたままです。戦うのは選手なのだから、と皆言って下さいました。けれど、あの勝負の別れ目の時、大げさに言えば私にとっても、選手にとっても運命の別れ道だったかも知れなかったあの時に、冷静な気持ちで適切なアドバイスが出来ていただろうかと思返すのです。

決して神奈川のレベルが下がったとは思いません。ただ、対戦相手だった京都チームの戦い振りを最終日の決勝戦まで見て感じた事は、気迫・根性負けたくないと言う気持ちがプレーに表われていたと言う事です。これを養うには、どうしたら良いのでしょうか? レッスン、スクール等盛んな様ですが……。

決勝戦の直前に監督の水野(旧姓福岡)さんに「是非頑張って優勝して」と言いましたら、「もう許してやって、神奈川に勝ったのだから、と、ここまで来たのやから。プレッシャーをかけないで、もう許してやって」と言われました。素晴らしい方と、又、出会う事が出来ました。

最後になりましたが、出場決定の日から試合当日迄、多勢の方々にお世話になりました。心からの応援に深く感謝しております。私にとってショックでは有りましたが、良い勉強をさせて頂いたと思っています。有難うございました。

本当に「マケテ クヤシイ 花イチモンメ」でした。



全国大会に参加して

高杉衣香・岩里弘子

11月5日、全国大会が始まりました。代表に決って1ヶ月余、どれだけの不安を抱き、どれだけの焦りを沈めてきた事でしょう。練習会での監督、先輩の御指導、あたたかい言葉、チームの皆さんとのほげまし合いでなんとかやるだけの事はやったと信じ、宿舎に入りました。ところが、楽しかった前夜祭もつかの間、非情な現実が私達を待ちかまえていました。1回戦、対京都戦で私達は負けてしまったのです。くじ運が悪かったとか、雨さえ降らなければと言ってくくださる方はたくさんいます。でも私達はこの現実を自分達の未熟の致すところと、とらえ深く反省しなければいけないと思っています。



この大会に参加するにあたり、数多くの方々のお力をお借りしました。皆様の御厚意に良い結果でお応えできなかった事は悔やまれてなりません。これをよい経験としてこれからのテニスに生かす事で皆様への御恩返しにさせていただければ幸いです。この紙面をお借りして皆様にお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

河村峰代・佐藤洋子

開会式の進行につれて、会場は熱気溢れ、いよいよドローの抽選がはじまりました。神奈川県は17番を引き、相手チームはどこかと息を呑むうち、「16番京都」というマイクの響きと共に、「わーっ」と一瞬会場がざわつきました。



水野さんの率いる京都チームは、しっかりしたチームで、私達はもう一息というところで力が尽きましたが京都チームはそのまま準優勝へと登り詰めました。

いろいろ大変ではありましたが、テニスによってコミュニケーションの輪が広がり、思い出が又一个増えたことが、何よりも嬉しい事でした。「今年代表ネ」「来年はない」と周りから心温まる？声援に乗せられて代表になってしまいました。神奈川県の実績と実績をバックに、プレッシャーが無かったとは言えませんが、この度の経験をステップに初心に帰り、楽しいテニスをしたいと思えます。大会役員、監督、チームメイト、そして良きパートナーに心よりお礼を申し上げます。

村野淑子・森内敏子

目標に向けて多くの人々が努力を重ねている中で今年は幸運にも勝利の女神と視線が合い代表になることができました。精神的に背水の陣とも云える3回目挑戦の私達は自分自身を見つめ己に克つことを心して試合に臨み技術的にもまだまだ未熟だらけではありましたが二人力を寄せ合えば希いも叶えられることを教えられました。全国大会ではスタートでつまづいてしまい神奈川の偉業を来年に引き継ぐことが出来ず、全国大会迄の1ヶ月余いろいろとお力添えを下すった諸先輩方、コートを中心よく提供下すったオーナーの方々、そしてその間コートの不便を我慢して下さった会員の皆様の暖かいお心をひしひしと感じておりましただけに報いることの出来なかった結果に心苦しさを覚えます。もし我々がハラハラさせずに勝ちさえしていたら佐藤・河村組も最初から自分達のペースで戦えていただろうに……とチームメイトに与えた影響を悔み、あのやさしい人柄で選手達に慕われていた監督の心中を察する時、胸が痛みます。この現実を大きな試練と受けとめ来年は新たな気持ちで困難を克服してゆく神奈川でありますように。



来年めざして 石渡三恵・高山千恵子

朝日レディース神奈川代表、これが私の今年目標でしたが、あと一步というところで力尽きてしまい、ほんとうに残念でした。しかし今年、春からエルボーに悩み、練習も夏の間ほとんどできない状態でした。その上、ペアの高山さんとも試合前に一度も合わせる機会がなく、そのまま予選にはいるといったひどいコンディションでした。そんな中で528組中4位というのは、考え方によっては上出来の方かもしれません。

この試合を通して感じた事は、ダブルスの難しさです。やはり勝ち抜いていかれた方々をみると技術をしっかり身につけ、その上に精神力の強さも兼ね備えていると云う、すばらしい面々ばかりです。そのお互いの力をいかに生かしてテニスをするかというのが、ダブルスのおもしろさ、難しさだと痛感しました。この経験をGOODにするか、BADにするかは、これからの自分の努力次第だと思っています。来年はきっと県代表になれるよう一年間頑張ってやっていきます。

観 戦 記

(相模原グリーンTC) 姫野富士子

神奈川チームに辛勝した京都はやはり強く、決勝に進出した。朝日レディース全国大会の最終日は朝から天候にめぐまれ最高のテニス日和。決勝戦は東京対京都の対決になりました。まずNo.2が一番手でコートに入り、東京6-1と1セットアップした所で隣のコートにNo.3が入りました。No.2は東京がミスの少ない迫力あるプレイで優勢、No.3は長いラリーの展開、No.3東京6-2と1セットアップした所で、No.2が6-1、6-3とまず東京が1勝です。No.2の後にNo.1が入りました。今大会を通して平行陣No.1といわれる京都ペアに対し、これ又雁行陣No.1といわれる東京ペアの技と力の対称的プレーが始まりました。京都No.3は1セットを落とし絶対絶命に追い込まれています。東京優勢で苦しく、お互いにかげ合う言葉「チェンジやチェンジ」「かんにんな」の声が悲痛なまでに印象深く残っています。No.1も大接戦の末、まず京都7-5で1セットアップ。2セット進行中にNo.3は6-2、7-5のスコアで東京が勝ち、この瞬間に東京の初優勝が決定です。監督、選手、応援団がとび上がり優勝のよろこびをからだ一杯に表わしていました。一進一退のNo.1は2セットを東京が6-3でとり、ファイナルにもち込まれました。完全優勝をめざす東京と、1勝をとがんばる京都のNo.1の試合は最後の1ポイントまで目の離せない展開で、観客を魅了しました。結局、5-7、6-3、7-5と東京完全優勝で幕を閉じ、素晴らしい決勝戦を観戦させて頂きました。

(湘南ローンTC) 間宮茂子

「不運な雨」だったかもしれない。雨にみまわれて試合半ばで会場を朝日生命久我山コートから品川プリンスインドアコートに移した。たまたま研修会でそこにいた私は、幸いな事に観戦することができたが、結果的には1-2で神奈川チームは初戦で敗退してしまった。これは、後から京都の水野監督に聞いた話だが、京都チームはインドアコートに移ったとたん、元々は雁行陣を得意とする全員が、監督の指示のもと戦法をかえ平行陣の攻撃に切り換えたのだそう。そして京都の選手達を支えていたものは「初日に敗けて帰りたくない！」とその一念だったそう。一言でいって今神奈川は「試練の時」を迎えているのではないかと私は思う。今の神奈川に足りないものは根性気迫、ねばり強さ……。私達は原点に立ち戻り、もう一度「朝日レディース」のあり方を見つめ「初めの一步」から出直す心意気を持ちたい。きびしい事を書いてきたが、私も経験者のひとりとして選手の大変さを知っている。最後に、心から言いたい。監督、代表選手の皆さん「本当にご苦労様！」…………と。

第8回県支部ブロック別シングルストーナメント

ブロック別	月日	場 所	参加人員	結 果
A	10/7 ～ 10/9	相模原市横山公園 テニスコート	76	優 勝 松岡かよ子 (サントリー) 準優勝 舛田 正子 (希 望 ヶ 丘) 第3位 小橋タミエ (千 代 田) 〃 永島 尚子 (サントリー)
B	9/29 ～ 10/2	本郷台テニスクラブ	136	優 勝 菊地 節子 (湘南ハイランド) 準優勝 渋谷 幸子 (鎌倉シーサイド) 第3位 白井 涼子 (本 郷 台) 〃 馬場崎幸子 (本 郷 台)
C	10/13 ～ 10/16	平塚市営桃浜コート 高麗山テニスクラブ 藤沢太平台テニスクラブ	114	優 勝 工藤美智子 (二 宮) 準優勝 上田 育子 (湘 南 ロ ー ン) 第3位 中尾久美子 (伊 勢 原) 〃 大勝ひと美 (湘南ファミリー)

第4回 武 石 杯

第4回武石杯を前に武石様より次のような御挨拶がありました。

“武石杯は高年令の方々のための試合です。米国では80才までの女子のランキングが出来ていると聞き、日本にも是非80才までのと念願しております。テニスというスポーツが時代を代表するスポーツとして婦人の心にさわやかな明かるいイメージをもたらしております。

来年は第5回になりますので60才以上を作りたいと願っております。御健闘を祈り上げます。”

と き 10月27・28・29日

と ころ 鎌倉ローンテニス倶楽部

55 才 以 上		50 才 ～ 54 才	
優 勝	藤 井・木 太 (横浜ローン・東林間)	優 勝	小 野・五十嵐 (湘南ローン)
準優勝	武 石・白 石 (鎌倉ローン・柿の木台)	準優勝	出 光・三 好 (湘南ローン・アミー)
第3位	渡 会・大 谷 (高麗山・流芳会)	第3位	布 川・檜 崎 (鎌倉宮カントリー)
〃	安 達・溝 口 (鎌倉ローン)	〃	岡 田・諸 隈 (鎌倉宮カントリー)

第19回県支部シングルストーナメント

❖❖❖❖❖❖❖ 仁尾伸子さん、初出場、初優勝 ❖❖❖❖❖❖❖

「子育てのブランクが10年、昨年よりぼつぼつダブルスに出場しました。B級出場を決めてから1ヶ月シングルの練習を始め、夜も子供が眠ってから走り込みました。

このトーナメントはレベルが高いので最初から苦しい試合でしたが、特に決勝は小川さんの多彩なショットに1stセット4-6と落しましたので、強打してミスをしないう我慢に徹しました。

家族に迷惑をかけたので優勝して喜こんでもらえて本当に嬉しかったです。」との優勝の弁でした。

と き 11月12・13日

と ころ 横浜スポーツマンクラブ

優 勝	仁 尾 伸 子 (個 人)
準 優 勝	小 川 加 代 子 (Y . S . C)
第 3 位	関 場 和 子 (上 郷 グ リ ー ン ヒ ル)
第 4 位	飯 尾 尚 子 (湘 南 グ リ ー ン)

ふ れ あ い

テニスで夜ふかし

柿ノ木台グリーンTC 小田 光子

西ドイツはデュッセルドルフに海外赴任が決まった時、「今までのようにテニスはできないよ」と主人に言われ、「テニス? そんなのいいわよ。思ってもみなかったヨーロッパに行けるなんて!」と丁度朝日レディースの全国大会に運良く優勝できた直後だけに、テニスに対する未練はありませんでした。なのに無意識のうちにラケットだけはしっかり抱え渡独していました。

デュッセルに第一歩を踏み入れたその日、時差ボケ解消だと最初にやったのがやっぱり“テニス”そしてひと汗かいたところで本場のビールをゴクリ。その味、今でも忘れられません。テニスの腕は落ち、ビールとワインの腕? はぐんとアップしました。

西ドイツの冬は厳しく長く、おまけに天候は年中不順です。しかし各地に設備の整ったすばらしいインドコートがあり、そこで私達は会社のグループ、気の合ったグループ、レベルの合ったグループなどでテニスを楽しむことができました。このコート、曜日と時間を指定し通常半年契約です。夜中の12時迄できるコートもありテニスで夜ふかしもしばしばです。

西ドイツでは何と言ってもサッカーが人気のスポーツですが、ベッカー、グラフの活躍もありテニス熱も随分盛んになってきたようです。和気あいあいのプレー風景は日本と同じですが、ゲームの主流がほとんどシングルス。やはりコート設備の余裕の違いでしょうか。

テニスを通じ、ドイツ人との親睦会にも参加できました。多くのすばらしい方達にも出会うことができました。3年余り、初めての海外生活でしたが、有意義に楽しく過ごせたのもテニスが大きな役割を果たしてくれたからです。 テニス バンザイ!

中近東でのテニス

サントリーTG戸塚 岸 智恵子

アラブ首長国連邦(U.A.E) アラビア湾に面した産油国と、アラビア湾に浮かぶ中近東の経済の中心地、バハレンの両国でテニスを楽しんできました。

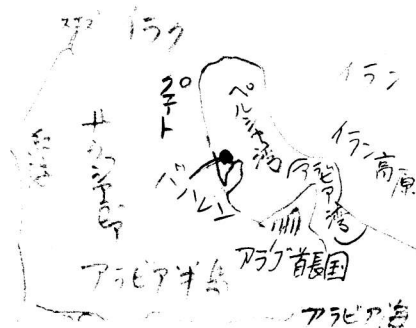
まずU.A.E、テニスをする人達は現地の人ではなく、ヨーロッパをはじめ、外国の人ばかりです。現地の人は男性は頭に白い布をかぶり、白い長いワンピース姿、女性は頭からつま先まで黒のベールにすっぽりおおわれていますからテニスとは無縁です。

テニスはスポーツクラブかホテルのクラブでします。酷暑の国ですからプレーはもっぱらナイトです。昼間はクーラーのきいた部屋で昼寝(この国の習慣)です。3・4ヶ月だけ日本の秋に似た冬があります。その時期は1日中プレーが出来ます。試合もその冬に集中的にあります。試合の仕方が日本と違います。ドローに各回戦ごとに期日が決まっており、対戦相手と連絡をとり場所と時間を決め、試合をし、結果を委員に知らせます。すると次の相手を教えてくれるのです。

準決勝ぐらいから場所・時間が決まっており、多数の観客の前でプレーをします。試合結果は新聞に写真入りで大きく出ます。私も4・5回参加しましたが、試合よりもその前の対戦相手との電話の応答に苦労しました。

バハレンはU.A.Eよりは進歩的で、黒のベール姿の人が少なく、テニスも現地の人がしていました。国をあげてスポーツに力を入れており、多勢のアメリカ人、各種目のコーチを呼んでいました。

テニスもジュニアに力を入れ、男女共10人前後の子供が毎日2人のコーチについて練習していました。男子は毎年夏休みにはアメリカ各地に遠征したり、アジア大会等にも参加しています。



◇ 女子の審判に期待する ◇

MIPTC 国際審判員 平木 皓 弋

この2・3年の間に、JAPAN OPEN, PAN PACIFIC, JALCUPなどの国際大会のREFEREEを仰せつかり女子連の方々と親しく接することができましたので、率直に感想を述べさせていただきます。

最初は主として線審としてお手伝い頂いた女子連の方々がほんの一兩年の間に日本の審判団の中核に成長しつつある現状は、真に喜ばしい限りです。当初、女子は声が小さいとか、MOVINGの動作が遅いとか一部の経験者が懸念されていましたが、それらはすべて杞憂に過ぎませんでした。大会毎に成長の目覚ましい女子の審判団におおいに期待しています。今後は全米OPENのように女子からも審判長を出して頂き、男子の試合にもご参加頂いて、一人でも多くのMIPTC審判員が増えることを願っています。

傲慢な考えかも知れませんが、試合はJUDGEがあってはじめて成り立つものです。良い審判をするためには、体調も調えなければなりません。2試合・3試合と連続して審判をやらされていますが、このようなことは今後絶対に避けねばなりません。大会を企画する人達に、審判のコストも充分考えていただき良い審判員を一人でも増やすようにお互いに勉強しましょう。

今年1年、約50名の審判委員は7つのトーナメントの審判をし大活躍でした。その仕事ぶりをMIPTC国際審判員平木氏に伺い、また審判経験者に感想をお願いしました。

人生の糧となって

柿ノ木台グリーンTC 小川 年子

私は国際試合でラインズマンを体験しました。選手がプレーに集中できるよう、主審・副審・線審の12名が力を合わせて試合を盛り上げます。私は声が大きいというだけで審判をさせて頂き、国際試合の予選から決勝戦まで貴重な経験をしました。

朝早くに、又夜遅くになることもありましたが、あの緊張感が今でも忘れられず、私の人生の糧になっています。審判を通じて素晴らしい試合を見、素晴らしい仲間もできました。感謝しています。

講習会もありますので皆様も是非一度体験してみたいはいかがでしょうか。

チームワークと各自の自信で

上郷グリーンヒルTC 笹 美智子

「アウト!」「フォルト!」「もっと大きな声で」と高橋さんの指導のもと、練習をくり返しそれでも極度の緊張と不安を抑えることができないまま、今年初めて審判に臨みました。ジュニアのジャルカップ、ジャパンオープン、ワールドユースカップと世界を回っているプレーヤーの真剣さに負けずとコートにへばりつくようにして、アウト、フォルトのコールをくり返し、無事終了した時の安堵感や満足感は言葉では言い表わせません。審判は縁の下の力持ちですが主審を中心としたチームワークと各自の自信が如何に大切かを感じたこの1年でした。

§ 会員名簿の訂正とおわび § (名簿委員会)

名簿に印刷ミスがありましたのでおわびをし訂正します。

頁	氏名	誤	正
4	小田光子 (住所変更)		
41	星 淑江		
77	湘南リバーサイド テニスクラブ		
〃	今井典子		

◇ 編集後記 ◇

いつの間にかカレンダーも残り1枚となりました。何もわからないまま広報をさせていただき、あつという間の2年でした。おかげさまで素晴らしい方々にお会いし、御協力いただきありがとうございました。来年からは酒井信子さんにやっていただきます。どうぞよろしく願いいたします。(鈴木)

(クラブ紹介は都合により次号にさせていただきます。)